

植物園北遺跡（上賀茂南大路町）

調査期間：令和7年7月1日（火）～ 8月8日（金）

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



1 はじめに

調査地は北区上賀茂南大路町に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地の「植物園北遺跡」に該当します。植物園北遺跡は上賀茂神社を頂点とし南東方向に形成された扇状地上に広がる遺跡で、弥生時代～中世に至るまでの幅広い時代の集落跡として知られています。（図1）

また、調査地の周辺には上賀茂神社の社家町として伝統的建造物群保存地区などがあり、京野菜として知られる**すくき**を製造・販売を生業とする農家が点在しています。

2 今回の発掘調査について

対象地では、令和6年に地中障害物掘削工事が計画されたため、試掘調査を実施したところ、平安時代、室町時代の遺構・遺物が確認されました。その計画は中止となりましたが、今回個人住宅新築工事が4筆に計画され、それぞれ埋蔵文化財保護法に基づく届出が行われました。この計画に対し記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。調査は令和7年7月1日から8月8日まで実施しました。調査面積は合計 137 m²です。

周辺では、上賀茂神社の社家町に関連する室町時代の遺構や、社家町形成以前の弥生時代～平安時代にかけての遺構が見つかっています（図1）。調査①では、弥生時代～古墳時代の流路や古墳時代の竪穴建物や掘立柱建物などが確認されました。調査②のうち北側の調査では、古墳時代の竪穴建物や、宅地・集落を画する鎌倉・室町時代の溝などが確認されており、社家町を囲む堀の可能性が考えられています。さらに調査③では、明神川に沿った場所で江戸時代の柱穴や土坑、室町時代の柱穴や大規模な整地跡などが確認されています。

3 発掘調査の成果

調査区は計5箇所設け（図2）、それぞれ古墳時代、平安時代、室町時代、江戸時代の遺構を確認しました。

1 区 調査区南半で整地層を確認しました。整地層上面で、幅 0.5～0.9 m、検出長 4.5 m以上、深さ 0.5 mの南北溝2を確認しました（図3）。埋土からはほぼ完形の土師器皿や高杯などが出土しました（図4）。時期は平安時代後期と考えられます。また溝2の東側でピットを3基確認しました。遺物が少量であるためはっきりとした時代は不明ですが、溝2に平行していることや埋土が似通っていることから同時期と考えられます。

また、南北 2.5 m、東西 2.4 mの楕円形状の土坑1を確認しました（図5）。この土坑は深さが 0.5 mで、大きく2層に分けて埋められています。下層には径 20～30 cmほどの石を入れており、上層は石を含まない土で埋められています。埋土から平安時代の土師器皿や中国産の白磁などが出土しました。時期は平安時代中期頃と考えられます。そのほか、土坑やピットなどを複数確認しました。

2 区 2区では調査区北側でピットを2基確認しました。この調査区では地山が1区の黄褐色シルト質とは異なり賀茂川に由来する砂礫となります。ピットから出土した遺物が細片であることから時期は不明です（図6）。

小 結 1区では平安時代の遺構を複数検出しました。西側の2区は地山が砂礫で、ピット2基の確認にとどまりました。1区は2区よりも安定した地盤であることから、遺構が多く展開していると言えます。1・2区では室町時代に社家町が形成されたとみられますが、それ以前にも集落が営まれていたことが明らかとなりました。

（清水 早織）

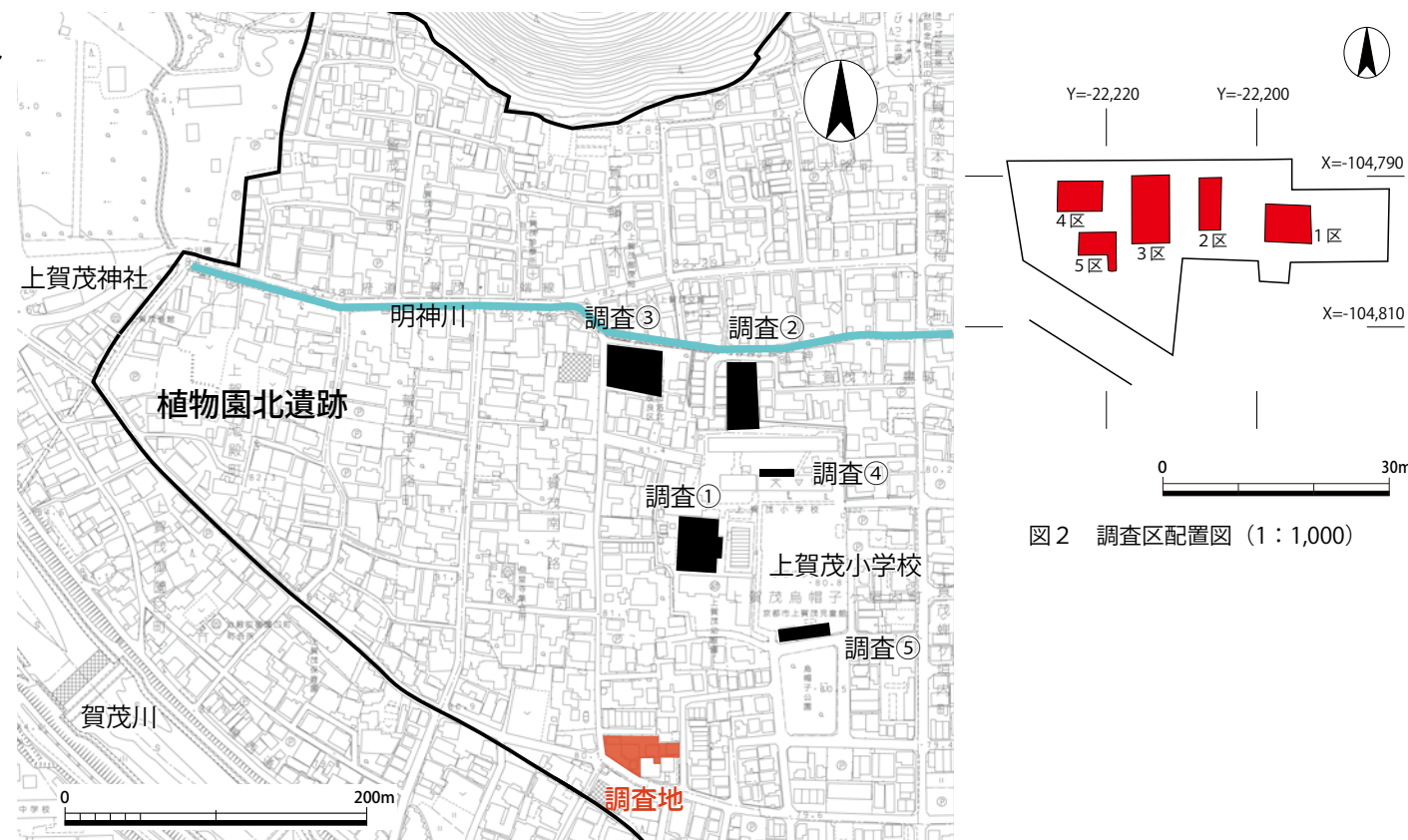


図1 調査地位置図（1：5,000）

図2 調査区配置図（1：1,000）



図3 1区全景（東から）



図4 1区溝2 遺物出土状況写真（南東から）



図5 1区土坑1半掘断面写真（南から）



図6 2区全景（北から）

3 区 3～5区では古墳時代～江戸時代中期の遺構・遺物を確認しました。以下、主要な遺構について紹介します。なお、遺構番号は調査区ごとに付けています。

3区では、砂礫の地山上面で遺構を検出しました。調査区北東側の東西約1.0 m、南北約3.9 m、深さ約0.15 mの範囲では整地土を確認し、平安時代～鎌倉時代の土師器・須恵器が出土しました。東へ落込む基盤層に整地土を入れ、平坦面を築いたと考えられます。

その整地土と基盤層を切り込んで成立する室町時代～江戸時代初期の南北方向の溝1を確認しました。(図9)。検出長約6.0 m以上、幅約1.3 mで北で東に約13°傾きます。深さは約0.3 mで、北から南に向かって緩やかに傾斜します。溝は南側の道路と直交するようにのびると考えられます。

そのほかにも、江戸時代初期～中期のピットなどが確認できました。

4 区 4区は粘質土の基盤層上面で遺構を検出しました。直径1.3～1.6 mの楕円形の古墳時代の土坑1を確認しました。

また、直径約0.5 mの円形掘り方に、約0.3 m大の礎石が据えられた柱穴3も確認しました(図12)。明確な時期は不明ですが、江戸時代頃と考えています。

4・5区 4区と5区では、室町時代～江戸時代の東西1間以上、南北1間以上の礎石建物跡を確認し、関連する柱穴3基を検出しました。

4区の柱穴2は、直径約0.5 mの円形掘り方に、約0.4 m大の礎石が据えられていました(図11)。5区柱穴2は、直径約0.5 mの円形掘り方に、約0.3 m大の礎石が据えられていました(図14)。断面観察により柱の痕跡が確認できました。5区柱穴3は、5区柱穴2より約2 m東側で確認しました。直径約0.5 mの円形、深さ約0.2 mです。約0.2 m大の石が据えられていました。4区柱穴2と5区柱穴2の間隔が約4 m離れているため、4・5区の間にもう1基同様の遺構があると考えられます。

なお、4区柱穴3は約0.4 m高い位置に礎石があるため施工に時期差があるとみられます。礎石建物の4区柱穴2と5区柱穴2を結ぶラインより東にあることから、別の建物に関連する遺構と考えています。

5 区 5区では、粘質土の基盤層上面で遺構を検出し

ました。古墳時代の南北方向の落込み1は、検出長5.7 m以上、幅0.8 m以上で、北から南に向かって緩やかに傾斜します。東端で立ち上がりが確認できず西肩のみの検出にとどまりましたが、3区には同様の堆積が確認できないことから、5区と3区の間に東肩がある溝の可能性もあります。古墳時代の土師器が出土しました。

ほかに、5区土坑4・5の2箇所^{えなつぼ}で、土師器の胞衣壺が出土しました。土坑4は、直径約0.35 mの円形で、深さ0.2 mのところに胞衣壺が据えられ、土師器で蓋をしている様子が確認できました(図15)。

土坑5は、西側が削平されていましたが、直径約0.3 mの円形で、深さ約0.2 mのところに胞衣壺が据えられ、その上に0.1～0.2 m大の石が置かれていました。壺の中には、江戸時代中期頃の土師器皿が入っていました(図16)。

小 結 3～5区では、古墳時代の土坑、平安時代～鎌倉時代の遺物を含む整地土、室町時代～江戸時代の建物跡や溝、江戸時代中期には人の往来が多い場所に埋める胞衣壺などを確認しました。また、3区よりも4・5区の粘質土の安定した基盤層で、古墳時代～江戸時代中期と幅広い時期の遺構・遺物が多く展開していました。

3～5区でも、社家町が築かれた時期及びそれ以前からの遺構・遺物を確認できました。長期に渡って土地利用がなされていたことがわかりました。

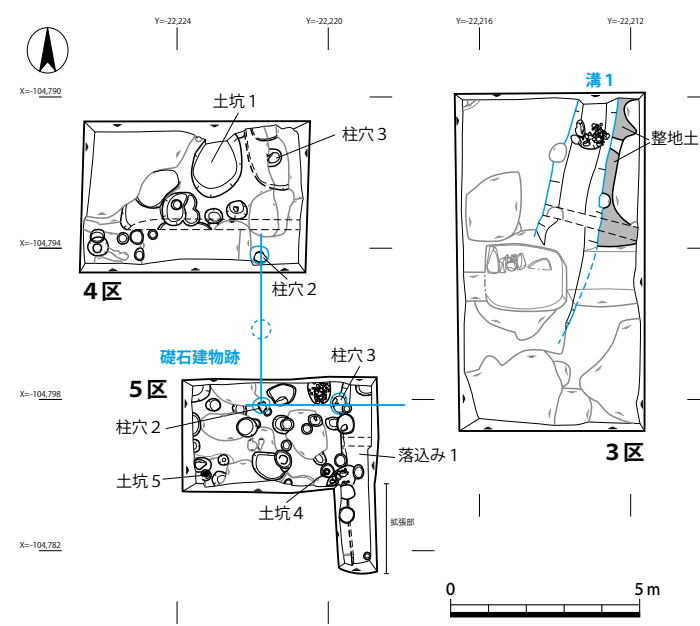


図7 3～5区平面図 【1：200】

4 まとめ

今回の調査では、古墳時代～江戸時代中期の遺構・遺物を確認することができました(図17)。

調査地では、上賀茂神社の社家町に関連する時期の建物跡や土坑などの遺構とともに、それ以前の土坑などの遺構が展開していました。長期間に渡って土地利用がなされていたとみられ、周辺の調査成果と同様、集落がこの辺りまで広がっていたことがわかりました。今後、周辺の調査が進むことで、調査地一帯での社家町形成時期とそれ以前の関連が明らかになるでしょう。

(八軒かほり)



図9 3区溝1 (北から)

図17 調査地全景 (東から)

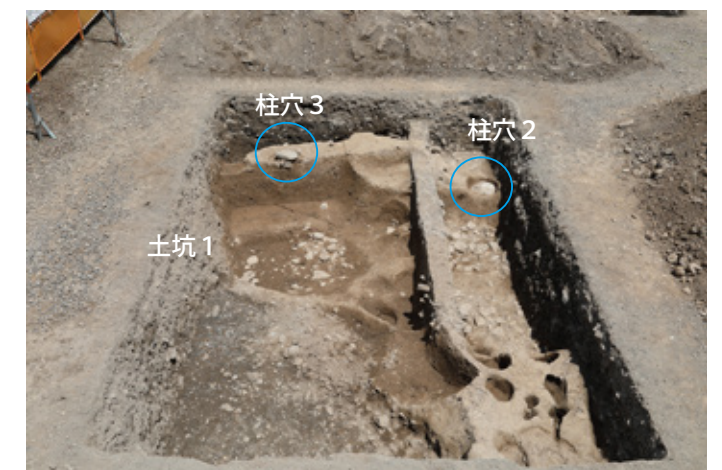


図10 4区全景 (西から)



図13 5区全景 (西から)



図8 3区全景 (南から)

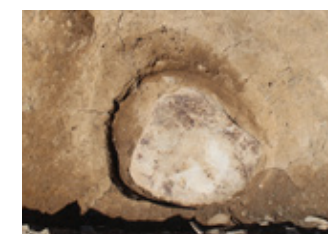


図11 4区柱穴2 (南から)



図12 4区柱穴3 (北から)



図14 5区柱穴2 (西から)



図15 5区土坑4 (東から)



図16 5区土坑5 (西から)



石除去後